

第29号 通巻第6巻第3号

1986年10月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター

TEL 0775-85-4397

〒524-02

守山市服部町2250番地

秋の特別展開催予告

文化・芸術の秋、そして天高く馬肥ゆる秋となりました。各地で文化祭や展示会が開催されるようになってきました。この好季節に当センターでは下記の通り展示会を開催することになりました。

記

- 1 期 間 昭和61年11月2日(日)～11月24日(月)
9:00～16:00 期間中無休
- 2 テ ー マ 「古代装飾」 —やきものの文様—
- 3 関連行事 講 演 会 11月16日(日) 午後2時から
土器づくり 11月9日(日) 午前10時から(予定)
スライド 期間中随時見学可能に検討中

今回の展示は、原始古代の人々が身の回りの道具にどのような装飾を施して生活していたかを探り、現代の人々と比較していただくよう計画しました。意外に飾った焼きものの中に素朴さや安定感のあるのは、当時の人々の精神生活の様子を知ることができそうです。秋晴れの澄んだ空気の中で、センターの特別展に足をお運びくださいますよう御案内致します。

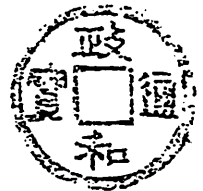
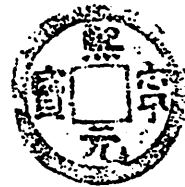
土器づくりについては市広報でお知らせします。

去る8月中旬に開催した「石と古代の暮らし」と題して特別展を開催したところ、多数の親子づれが見学されました。みごとに加工した各石器に古代人の生きざまを見た感じだという声がかれました。身の回りの石ではなく、遠い国から運んだ苦勞を感じずにいられますとの声も聞かれました。

発掘調査だより 古高遺跡

乙貞第29号(8月1日号)でその一部を紹介しましたが、9月中旬に調査が終了しましたので、中間報告としてお知らせします。場所は市立南中学校の西側で、新しく道路を建設するための事前調査です。幅約15m、延長約250mを対象としており、北端では大溝と鎌倉時代後半の掘立柱建物と溝、古墳時代中頃の溝と弥生時代末の溝などが検出されました。古墳時代の溝からは前号でお知らせした滑石を主体とする玉つくり関連遺物が多量に出土しており、鎌倉時代の遺構からは黒色土器や陶器が出土しています。この鎌倉時代の遺構の中で興味深いのは調査の範囲を縦断するように幅2m程の溝が検出され、北半は2条が並行し、ほぼ中央少し北寄りで横断する溝に合流する状況です。この溝の方向は条理制の地割の方向と一致し、このあたりの水田化がほぼ13~14世紀と考えられることです。また横断する溝の下層からは中国の宋の時代の銭「淳化」「天聖」「熙寧」「政和」の四種の銅銭が出土しており「990~1111年」ごろに鑄造されており、日本にもたらされたものであることがわかります。この2本の溝は条理制の地割を実施することで、村を計画的に立地させたり、道路や水路の整備をしたものと思われる有力な証拠となります。

また、滑石については、その種類として、鏡型模造品、勾玉、管玉、白玉がみられ、中でも白玉は数百点に達し、数多くの未製品を含んでいます。この近くに生産地が推定されます。

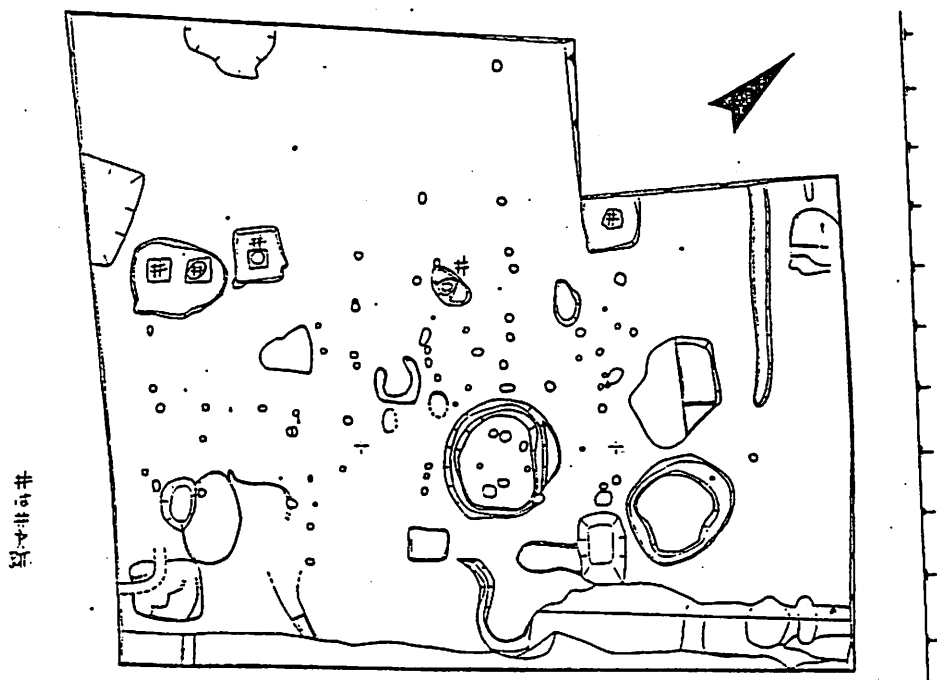


淳化元寶(990~994) 998年 尾張国百姓ら藤原元令を訴える
天聖元寶(1023~1031) 1028年平忠常 下総国で反乱
熙寧元寶(1068~1078) 1067年藤原頼通関白をやめる
政和通寶(1111~1117) 1111年六波羅蜜寺焼亡

下は古高遺跡の黒色土器底部外面に書かれた墨書文字です。

杉江遺跡

個人住宅の建築に伴うもので、杉江町集落の南の端の畑地で調査を実施しました。約600㎡近くを調査したところ、鎌倉時代の建物跡、井戸跡、溝跡、そして墓と思われる遺構が重複して、高い密度で検出されました。建物は小・中規模の納屋か、小屋状のものです。井戸は興味深く、枠として桶や曲物の内枠、竹や板をくんだ外枠などがあり、地下約2m近くまで掘り込んでありました。杉江の南端は一段高い畑地になっていますが、この高まりが実は当時のムラの中でも一段高く、横江遺跡の一段高い屋敷地があったように、ムラの中でも少し性格の異なる人々の居住域と言えましょう。



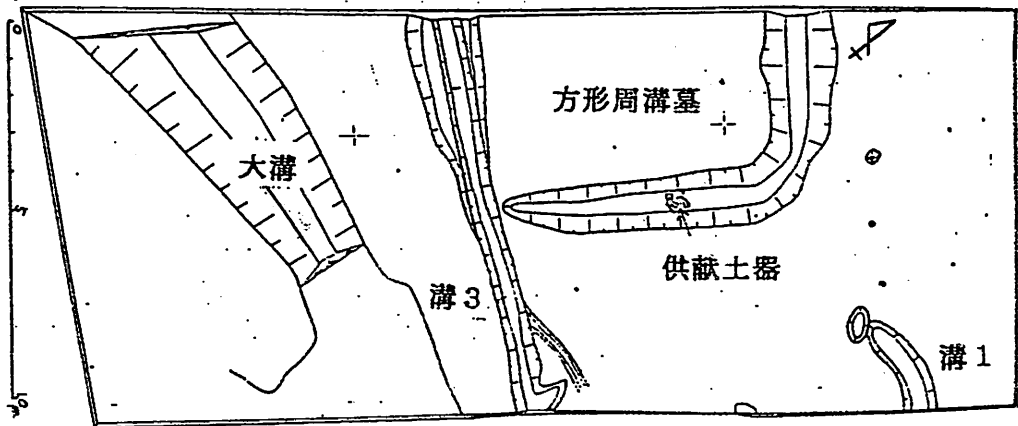
石田三宅遺跡

その後の調査は西半を行い、9月末日で終了することができました。中世の遺構が広がり、建物や溝もみつかりました。東半の調査でみつかった弥生時代の溝が更に長くつづき、途中で枝分かれし、井堰が設けてありました。水の流れをせき止めたものです。先の8月1日号では未調査の大きな落ち込みは、調査後日今一つ明らかではないのですが、池状の設備ではないかとも言われています。また一辺4m程の四角く巡る溝は最近、徐々に検出例の増えつつある「墓」ではないかと考えられます。この次には中断していた横江遺跡の調査が

再開されますので、改めて報告します。

八坪遺跡

播磨田町の「とりつけ道路」の近くで新しく発見された遺跡です。弥生時代中期の方形周溝墓1基とピット、大溝が検出されました。方形周溝墓は一辺約11mの大きさと、東南辺のほぼ中央に供献土器が出土しています。大溝は古墳時代初頭に掘り込まれたもので、激しい流水があり、比較的短期間に埋もれた後、再度掘り直しています。



今年度後半期の計画

川田遺跡	- 工場用地	10月～3月
吉身西遺跡	- 区画整理	10月～3月
播磨田東遺跡	- 宅地造成	11月～
石田三宅遺跡	- ほ場整備	10月～
欲賀南遺跡	- 道路	11月～
吉身西遺跡	- 道路	10月～
市内遺跡	- 個人住宅	随時

編集後記

ススキやひがん花が目につき、空も澄みきっています。調査や研究に格好の季節です。山積する出土遺物や広大な現場から古代人の息吹を感じるとき「ほっと一息」、心を改めてとりかかれる気がします。